

# Faculty of Humanities and Education

島根県立大学 松江キャンパス  
人間文化学部

2018年4月  
開学予定



設置認可申請中

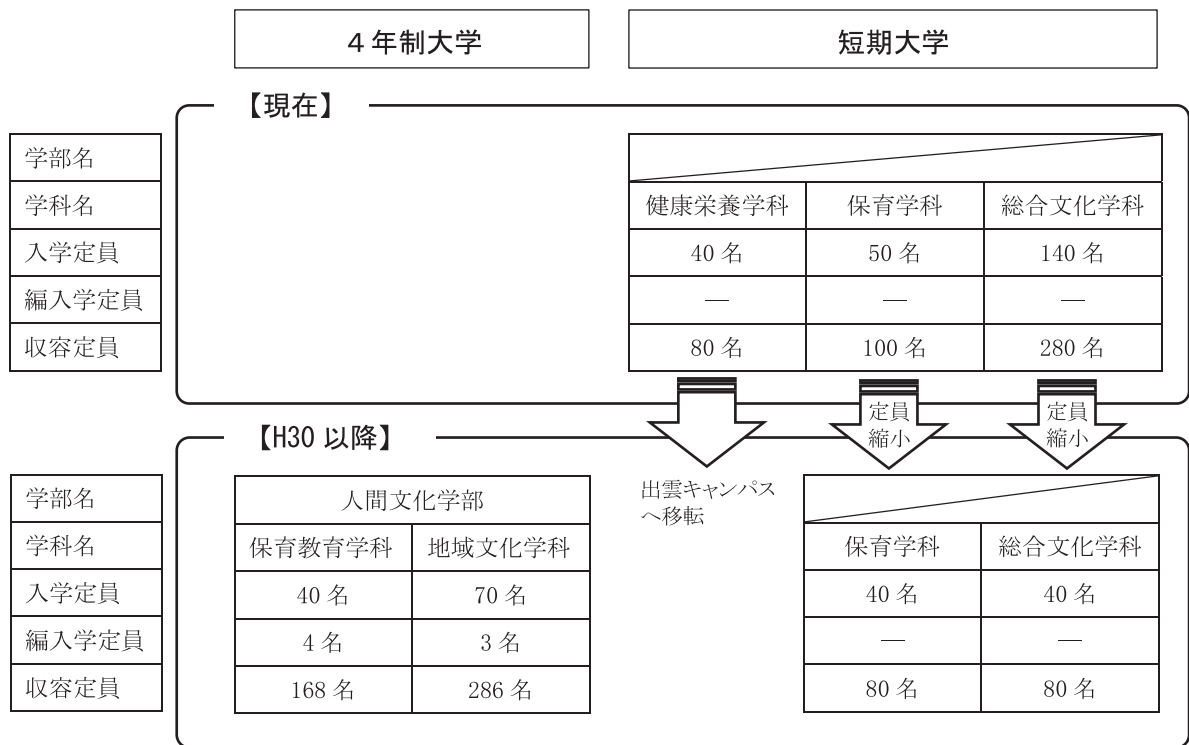
記載内容については、  
今後変更になる  
可能性があります。





## 1 島根県立大学学部・学科改編等の概要

- 松江キャンパスに「保育教育学科」「地域文化学科」の2学科で構成する4年制の「人間文化学部」を新たに設置します。
- 短期大学部は定員を縮小し、「保育学科」「総合文化学科」の2学科構成に改編します。
- 短期大学部健康栄養学科は4年制化し、出雲キャンパスに移転します。



## 2 育成する人材

人間文化学部では、保育教育学科、地域文化学科それぞれにおいて、また、両学科に共通する人材として、次のような人材を育成していきます。



地域における文化の発見と継承、再生に取り組み、地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材



地域文化や児童文化を次世代に向けて継承し得る豊かな人間性をもった保育者・教育者

乳幼児期から児童期までの子どもの成長・発達を見通して考えることのできる広い視野と高度な専門性を持ち、地域の様々な環境に置かれた子どもや障害のある子どもに対応し得る高い実践力を備えた人材



地域の文化を基盤としてグローバルな視点で文化の諸相を捉えることのできる広い視野と寛容の精神を備え、人々と協働しながら文化の活性化に取り組む態度を身に付けた人材

### 3 ディプロマポリシー（学位授与方針）

学生は、大学の学びから次に掲げる資質・能力を修得していきます。

学部・学科	[知識・技能]	[思考力・判断力・表現力]	[関心・意欲・態度]
人間文化学 部	人間と文化について広い視野を備え、多様性を理解することができる。	地域における人間の生き方や文化の様態について、自ら価値を見出すことができる。	人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。
保育教育学 科	保育・教育及び関連する諸分野に関する専門的な知識及び技能を身に付けている。	保育・教育に関する諸課題について多様な角度から考察し、自ら主体的に課題解決に向けた思考判断ができる。	集団活動において、協同的に活動して成果を上げる姿勢とコミュニケーション力を有する。
	乳幼児期から児童期までの子どもの発達に関する課題を論理的に理解できる。	学修した専門的知識と技能を、言葉、文章、図表、身体表現等の多様な方法によりの確に表現することができる。	地域社会において、保育者、教育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観、職業観を身に付けている。
地域文化学 科	地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。	人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。	異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。
	国際化に対応した語学力を身に付けている。	情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。	地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。
	地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。	言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。	地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。

### 4 カリキュラム

#### (1) 人間文化学部の学びの特色

しまねの文化の学びを通じた地域への深い理解とふるさと意識や愛着心の醸成

「しまねの文化」という独自の科目群を設け、地域貢献型の人材を育成していきます。

「しまね地域共生学入門」では、本県が数十年来直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という諸課題について、3キャンパスの教員がオムニバスによりそれぞれの専門分野から講義します。「しまね文化論」では、県内各地域の専門家や実践者、博物館の学芸員等をオムニバスでゲストスピーカーとして招き、地域に残る伝統文化の歴史的背景や文化的価値、文化を伝承する上での課題や未来への継承に向けた現地での取り組みなどを講義していただき、学生に各地域に残る文化の価値とそれらを未来へ継承することの意義について理解させ、ふるさとへの愛着を育んでいきます。また、「しまねボランティア研修」では、主体的に地域課題に取り組む社会人基礎力の育成を図っていきます。

### 地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材の育成

社会に出て即戦力となる職業人養成を行っていくため、両学科の基礎科目に「ライフデザイン」科目群を設け、それぞれの学科において段階的にキャリア形成の計画を立て、実習やインターンシップ等の実地体験の機会を通して、より確実に地域で活躍できる実践力を身に付けられるようきめ細かい指導を行っていきます。

## (2) 保育教育学科の学びの特色

### 幼稚園・保育所・認定こども園の保育・教育を担う人材の育成

保育士資格との併有を推進し、幼児教育及び地域の様々な保育ニーズ・子育てニーズに対応する力を持った人材を育成していきます。幼児期の教育・保育は、子どもの基本的な生活習慣や態度を育て、道徳性の芽生えを促し、学習意欲の基礎となる好奇心や探究心を養い、創造性を豊かにするなど、小学校入学後の生きる力の基礎や生涯にわたる人間形成の基礎を培う上でとても重要なものです。保育教育学科では、幼児期の教育・保育から小学校教育への円滑な接続を図ることができる高い専門性と実践力を身に付けていきます。

### 乳幼児期の育ちを踏まえた小学校教育を理解し得る人材の育成

小学校教諭の養成においては、幼稚園教諭免許状の併有を推進し、乳幼児期から児童期までの子どもの発達や学校教育の連続性を理解した人材を育成していきます。乳幼児期の子どもの発達や教育を理解した上で、小学校において「ふるさと教育」をはじめとする保幼小中連携に関わる教師の仕事に対する使命感や誇り、教職に対する強い情熱を持ち、子どもへの指導力、集団・学級経営や学習指導、教材研究や地域資源の活用などの教育専門職としての力量と、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を持ち、他の専門職と協働できる力を持った総合的に人間力の高い教員を育成していきます。

### インクルーシブ教育に対応できる人材の育成

特別支援学校教諭の養成においては、幼稚園教諭あるいは小学校教諭免許状を基礎資格とし、発達の可塑性をもつ乳幼児期の段階から、学校・保育施設と医療・福祉・労働などの分野との連携を図りながら、一人ひとりの教育ニーズに応じた指導・支援ができる人材を育成します。近年、幼児期を含む全ての学校等において発達障がいを含めた障がいの多様化への対応、教育環境の整備、必要な支援の在り方検討及び校内支援体制の整備等への対応が課題となっています。発達の可塑性をもつ乳幼児期の段階から、障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するという視点に立ち、保育施設・学校と医療・福祉・労働などの分野との連携を図りながら、インクルーシブ教育に対応できる素養を身に付けていきます。

## (3) 地域文化学科の学びの特色

### 「地域文化」「日本文化」「国際文化」の総合的な学び

専門基幹科目として「地域文化」を学びながら、同時に専門科目として「日本文化コース」「国際文化コース」に分かれて学修します。その際、いずれのコースにおいても、もう一方のコースの科目を一定程度学ぶ仕組みとしており、「地域文化」を基幹に置きながら、「日本文



化] [国際文化] についても様々な角度から知見を蓄え、文化について総合的に学ぶ教育体系としていきます。

**地域文化の「発見」「体験」「活用」を通じた体系的な学び**

専門基幹科目の [地域文化] の学びに、[文化の発見] [文化の体験] [文化の活用] の科目群を置き、[文化の発見] では、島根を中心に地域ゆかりの人や文物について知識を蓄え、[文化の体験] では、島根や山陰の各地域をフィールドとしてその土地ならではの文化や歴史について五感を通して学んでいきます。[文化の活用] では、「発見」や「体験」を通して学んだ地域文化の魅力を地域の活性化に役立てる方法について、観光まちづくりの視点から具体的に学んでいきます。座学と体験、さらには観光まちづくりの学びなど、多様なアプローチを通して体系的に地域文化について学修していきます。

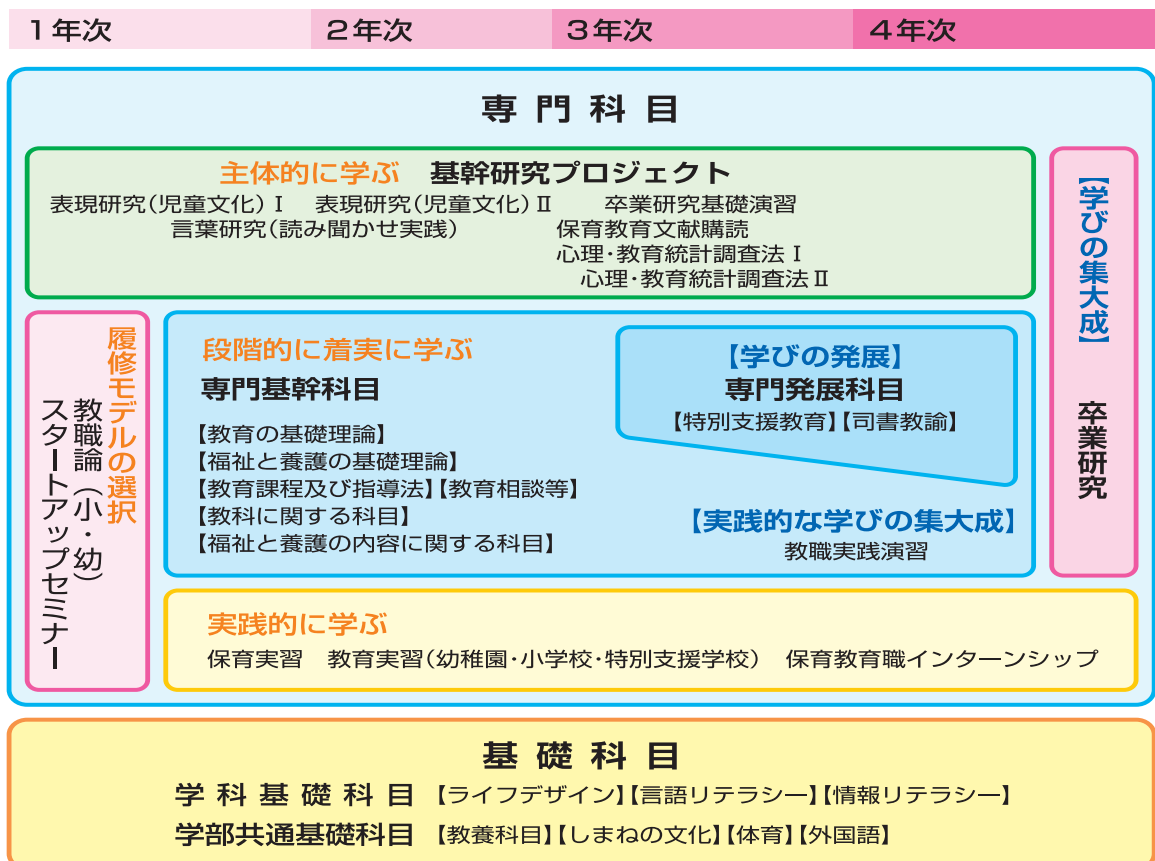
**幅広い職業に対応し得るきめ細かいキャリア支援**

[学科基礎科目] に [ライフデザイン] 科目群を配置し、1年次には大学生活での目標設定・行動計画の策定、2年次には地元企業と連携した課題解決型アクティブラーニング、3年次にはエントリーシート、面接、グループディスカッション対策等、初年次から職業観の醸成を図り、具体的な就職活動トレーニングを行っていきます。

その他、「ふるさと島根定住財団」をはじめとする就労支援機関や経済団体等と協力しながらインターンシップの機会を充実していきます。

また、地域文化学科の教員による少人数の担任制を設け、学生一人ひとりの適性や能力に応じた進路指導により、大学生活を通してきめ細かいキャリア支援を行っていきます。

(4) 保育教育学科 学びの概念図



- ① 「学科基礎科目」を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う「ライフデザイン」科目群、保育教育職の基礎的リテラシーを養成する「言語リテラシー」科目群及び「情報リテラシー」科目群を配置します。
- ② 地域の課題を自ら探究する能力の育成を行うために「基幹研究プロジェクト」を設け、アクティブラーニングによる地域活動科目や、課題意識に基づく自主的研究活動推進のための科目を配置します。
- ③ 地域の人間と文化の魅力を、次世代を担う子どもたちに継承することができる表現力を育成するために「基幹研究プロジェクト」の必修科目として「表現研究(児童文化)Ⅰ・Ⅱ」「言葉研究(読み聞かせ実践)」のアクティブラーニング科目を設け、「専門基幹科目」の指導法・演習等の基盤とします。
- ④ 子どもの発達や学習過程についての高い専門性と考察力の育成を段階的に着実にを行うために、専門科目を「専門基幹科目」と「専門発展科目」の2段階で編成し、さらに「専門基幹科目」の中に、科目区分「教職の意義」や「教育の基礎理論」「福祉と養護の基礎理論」等の基礎理論の科目群を必修科目として配置します。
- ⑤ 集団での協同的実践力の育成を行うことを目的として、4年間の教育課程を通し、実習体験活動やグループ演習を重視した指導を行います。

(5) 地域文化学科 学びの概念図



- ① 「学科基礎科目」を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う「ライフデザイン」科目群、基礎的英語力を養成する「言語リテラシー」科目群、情報処理能力を養成する「情報リテラシー」科目群を配置します。
- ② 地域の文化に関する理解を深めるため、「専門基幹科目」に1年次より履修する「入門」「文化の発見」「文化の体験」「文化の活用」の科目群を置きます。「入門」では、「地域文化入門」を必修として配置し、「文化の発見」では、地域文化の魅力について理解する科目を



配置します。「文化の体験」では、島根の各地域をフィールドとして体験的に学修する科目を配置します。「文化の活用」では、観光まちづくりを通して文化を地域の活性化に結びつける方法を修得する科目を配置します。

- ③ 日本及び海外諸地域の文化について探究し、文化を多面的に捉えることができる広い視野を身に付けること、異なる地域や異なる時代の様々な人間の生き方や文化を尊重する寛容と共生の精神を養うために、2年次以降に「日本文化コース」及び「国際文化コース」の〔専門科目〕として、日本や海外諸地域の文化や文学、歴史について幅広く学修する科目を設置します。
- ④ 豊かで的確な表現力と円滑なコミュニケーション力を育成するため、1年次のスタートアップセミナーから4年次の卒業研究「地域文化プロジェクトⅡ」に至るまで、少人数ゼミでの口頭発表やレポート作成を行います。外国語については、[学科基礎科目]の[言語リテラシー]や、国際文化コースの〔専門科目〕において英語を幅広く学び、実践的な英語力を身に付けながら、TOEICや観光英語検定などの資格支援も同時に行います。[学部共通基礎科目]には、グローバル社会において重要な第2外国語を配置し、4言語からの選択必修としています。
- ⑤ 以上の教育課程を統合し、3年次の「地域文化プロジェクトⅠ」、4年次の「地域文化プロジェクトⅡ」において、日本文化コース、国際文化コースの学びの集大成を図ります。

## 5 入試制度

### (1) アドミッションポリシー

人間文化学部が入学者に求める学生像は次のとおりです。

学部・学科	[知識・技能]	[思考力・判断力・表現力]	[関心・意欲・態度]
人間文化学部	高等学校における基本的な教科を幅広く理解し、大学で学んでいく上で必要な基礎的な学力を身に付けている人	広く多様な角度から物事を捉える視野と、自ら主体的に考える姿勢を有し、自らの考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人	大学での学びを地域に還元し、他者と協調しながらこれからの地域社会を担っていこうとする強い意欲のある人
保育教育学科	保育者・教育者としての専門的知識や技能を身に付けていくために必要な基礎的な学力を有している人	多様な角度から課題を捉え、自分の視点で考察した上で、自分の考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人	保育者・教育者として、大学で学んだ専門的知識や技能を地域に還元し、他者と協調しながら社会に貢献していこうとする強い意欲を有している人
地域文化学科	文化に関する様々な分野からの専門的な学びを深めていくために必要な基礎的な学力を有している人	広い視野から事象を見て、自ら見出した課題を主体的に考え、自分の考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人	地域の文化から日本、海外諸地域の文化まで多様な視点から文化について学び、学んだことを地域において還元し、社会に貢献していこうとする強い意欲を有している人

## 保育教育学科

### 1. 募集人員

入学 定員	募集人員						
	一般入試 〈注1〉	推薦入試		社会人・ 学士入試	帰国子女 入試	私費外国 人留学生 入試	3年次編 入学試験
		県内高等 学校推薦 〈注2〉	自己推薦 〈注3〉				
40名	20名	12名	8名	1名以内	1名以内	1名以内	4名以内 (H32以降)

注1 「一般入試」の募集人員には、「社会人・学士入試」、「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」の募集人員を含む。

注2 「推薦入試（県内高等学校推薦）」へ推薦できる人数は、島根県内高等学校から各校2名以内とする。

注3 「推薦入試（自己推薦）」は、島根県内高等学校の生徒を対象とする。

### 2. 選抜方法

#### (1) 一般入試

##### ① 選抜内容

試験日	合格 発表	選抜内容			
		センター試験	書類	個別学力検査等	
				小論文	面接
2/25 2/26	3/5	4教科4科目 又は5科目	—	—	○

##### ② 出願要件（概要）

- ・ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- ・ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- ・ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる（見込みの）者

##### ③ 試験の内容

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目		個別 試験	備考
教科	科目選択方法		
国語	「国語」	必須	面接資料として、「志願理由書」の提出を求める。
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のうち1科目〈注1〉		
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)		
理科	理科①(「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」のうち2科目(理科①は、2科目の受験で1科目とみなす。)又は理科②(「物理」「化学」「生物」「地学」のうち1科目〈注2〉)	1科目 〈注5〉	
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」のうち1科目〈注3〉		



- 注1 「数学」について、2科目受験している場合は高得点の1科目を利用する。  
 注2 「理科①」の2科目と「理科②」の1科目のいずれも受験している場合は、「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のうち、高得点を利用する。  
 「理科②」について、2科目受験している場合は、第1解答科目<sup>（注4）</sup>を利用する。  
 注3 「地理歴史・公民」について、2科目受験している場合は第1解答科目<sup>（注4）</sup>を利用する。  
 注4 「理科②」「地理歴史・公民」の試験時間に2科目を受験する場合、解答順に、前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」と呼ぶ。  
 注5 「理科」「地理歴史・公民」の中から高得点の1科目を利用する。

## (2) 推薦入試

### ① 選抜内容

区分	試験日	合格発表	選抜内容			
			センター試験	書類	個別学力検査等	
					小論文	面接
県内高等学校推薦	12/9	2/7	3教科3科目	○	○	○
自己推薦	12/9	【1次】 12/22 <sup>（注1）</sup>	3教科3科目	○	○	○
		【最終】 2/7 <sup>（注2）</sup>				

注1 小論文、面接、調査書による選考結果の発表は12/22に実施

注2 センター試験後の最終合格発表は2/7に実施（③試験の内容「イ 自己推薦」を参照）

### ② 出願要件(概要)

次の出願要件Ⅰ及びⅡに該当し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。

種別	出願要件Ⅰ	出願要件Ⅱ
県内高等学校推薦	次のいずれかに該当する者であること ア 島根県内の高等学校を平成30年3月卒業見込みの者 イ 島根県内において通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月修了見込みの者	次のすべてに該当する者であること ア 人物・学業成績ともに優秀で、在学学校長が責任をもって推薦できる者 イ 調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者
自己推薦	次のいずれかに該当する者であること ア 島根県内の高等学校を平成30年3月卒業見込みの者 イ 島根県内において通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月修了見込みの者	調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者

### ③ 試験の内容

#### ア 県内高等学校推薦

- 小論文、面接、調査書、大学入試センター試験により選考を行い、合否を判定する。  
 （面接資料として、「志願理由書」の提出を求める）
- 大学入試センター試験は、「国語（近代以降の文章）」（100点）、「数学」（100点）、「外国語（英語）」（250点を200点に換算）の合計400点を40点に換算する。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目		個別試験	備考
教科	科目選択方法		
国語	「国語」（近代以降の文章）	小論文 面接	面接資料として、「志願理由書」の提出を求める。
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のうち1科目 <sup>（注1）</sup>		
外国語	「英語」（リスニングテストを課す）		

注1 「数学」について、2科目受験している場合は高得点の1科目を利用する。

## イ 自己推薦

- ・小論文、面接、調査書により選考を行い、可否を判定する。  
(面接資料として、「志願理由書」の提出を求める)
- ・ただし、上記選考合格者には大学入試センター試験を課し、「国語(近代以降の文章)」(100点)、「数学」(100点)、「外国語(英語)」(250点を100点に換算)の合計300点の50%以上であることを目安として最終合格とする。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	
教科	科目選択方法
国語	「国語」(近代以降の文章)
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のうち1科目 <sup>注1</sup>
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)

注1 「数学」について、2科目受験している場合は高得点の1科目を利用する。

### 3. ポリシーと選抜方法の関連 ◎：特に重視する ○：重視する 空欄：考慮する 一般入試

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度
センター試験	◎		
面接		○	◎

### 推薦入試(県内高等学校推薦)

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度
センター試験	◎		
小論文		◎	○
面接		○	◎
書類審査	◎		○

### 推薦入試(自己推薦)

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度
小論文		◎	○
面接		○	◎
書類審査	◎		○



## 地域文化学科

### 1. 募集人員

入学 定員	募集人員						
	一般入試 <sup>〈注1〉</sup>		推薦入試	社会人・ 学士入試	帰国子女 入試	私費外国 人留学生 入試	3年次編 入学試験 〈注2〉
	前期日程	後期日程	自己推薦				
70名	30名	10名	30名 (県内優先枠20名)	1名以内	1名以内	1名以内	3名以内 (H32以降)

注1 「一般入試」の募集人員には、「社会人・学士入試」、「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」の募集人員を含む。

注2 地域文化学科の「3年次編入学試験」は、本学短期大学部総合文化学科の学生を対象とする。

### 2. 選抜方法

#### (1) 一般入試

##### ① 選抜内容

種別	試験日	合格発表	選抜内容				
			センター試験	書類	個別学力検査等		
					小論文	面接	その他
前期	2/25 2/26	3/5	5教科5科目 又は6科目	—	—	○	—
後期	3/12	3/20	4教科4科目 又は5科目	—	—	○	—

##### ② 出願要件（概要）

- ・ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- ・ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- ・ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる（見込みの）者

##### ③ 試験の内容

###### ア 前期日程

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目			個別 試験	備考
教科	科目選択方法			
国語	「国語」		必須	面接資料として、「志願理由書」の提出を求める。
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)			
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のうち1科目 <sup>〈注1〉</sup>		3科目 <sup>〈注5〉</sup>	
理科	理科①(「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」のうち2科目(理科①は、2科目の受験で1科目とみなす。))又は理科②(「物理」「化学」「生物」「地学」のうち1科目 <sup>〈注2〉</sup> 。			
地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」のうち1科目 <sup>〈注3〉</sup>			
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」のうち1科目 <sup>〈注3〉</sup>			

- 注1 「数学」について、2科目受験している場合は高得点の1科目を利用する。
- 注2 「理科①」の2科目と「理科②」の1科目のいずれも受験している場合は、「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のうち、高得点を利用する。  
「理科②」について、2科目受験している場合は、第1解答科目<sup>〔注4〕</sup>を利用する。
- 注3 「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目の2科目を受験している場合、当該科目については第1、2解答科目<sup>〔注4〕</sup>に関係なく、両科目を利用する科目<sup>〔注5〕</sup>の対象とする。  
上記以外の場合は、第1解答科目<sup>〔注4〕</sup>を利用する。
- 注4 「理科②」「地理歴史・公民」の試験時間に2科目を受験する場合、解答順に、前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」と呼ぶ。
- 注5 「数学」「理科」「地理歴史」「公民」の中から高得点の3科目を利用する。

## イ 後期日程

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目		個別試験	備考
教科	科目選択方法		
国語	「国語」	必須	面接資料として、「志願理由書」の提出を求める。
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)		
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のうち1科目 <sup>〔注1〕</sup>	2科目 <sup>〔注5〕</sup>	
理科	理科①(「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」)のうち2科目(理科①は、2科目の受験で1科目とみなす。)又は理科②(「物理」「化学」「生物」「地学」)のうち1科目 <sup>〔注2〕</sup>		
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」のうち1科目 <sup>〔注3〕</sup>		

- 注1 「数学」について、2科目受験している場合は高得点の1科目を利用する。
- 注2 「理科①」の2科目と「理科②」の1科目のいずれも受験している場合は、「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のうち、高得点を利用する。  
「理科②」について、2科目受験している場合は、第1解答科目<sup>〔注4〕</sup>を利用する。
- 注3 「地理歴史・公民」について、2科目受験している場合は第1解答科目<sup>〔注4〕</sup>を利用する。
- 注4 「理科②」「地理歴史・公民」の試験時間に2科目を受験する場合、解答順に、前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」と呼ぶ。
- 注5 「数学」「理科」「地理歴史・公民」の中から高得点の2科目を利用する。

## (2) 推薦入試

### ① 選抜内容

学科	区分	試験日	合格発表	選抜内容			
				センター試験	書類	個別学力検査等	
						小論文	面接
地域文化 学科	自己推薦	12/9	【1次】12/22 <sup>〔注1〕</sup>	3教科3科目 又は4科目	○	○	○
			【最終】2/7 <sup>〔注2〕</sup>				

- 注1 小論文、面接、調査書による選考結果の発表は12/22に実施
- 注2 センター試験後の最終合格発表は2/7に実施（③試験の内容「ア 自己推薦」を参照）

② 出願要件(概要)

次の出願要件Ⅰ及びⅡに該当し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。

種別	出願要件Ⅰ	出願要件Ⅱ
自己推薦	次のいずれかに該当する者であること ア 高等学校もしくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 イ 通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月修了見込みの者	調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者

③ 試験の内容

ア 自己推薦

- ・ 小論文、面接、調査書により選考を行い、合否を判定する。  
面接資料として、「志願理由書」の提出を求める)
- ・ ただし、上記選考合格者には大学入試センター試験を課し、「国語(近代以降の文章)」(100点)、「外国語(英語)」(250点を100点に換算)、「数学」「理科」「地歴・公民」のうちから1科目(100点)の、合計300点の50%以上であることを目安として最終合格とする。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目		
教科	科目選択方法	
国語	「国語」(近代以降の文章)	必須
外国語	「英語」(リスニングテストを課す)	
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」のうち1科目 <sup>&lt;注1&gt;</sup>	1科目 <sup>&lt;注5&gt;</sup>
理科	理科①(「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」)のうち2科目(理科①は、2科目の受験で1科目とみなす。)又は理科②(「物理」「化学」「生物」「地学」)のうち1科目 <sup>&lt;注2&gt;</sup>	
地理歴史・公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」のうち1科目 <sup>&lt;注3&gt;</sup>	

注1 「数学」について、2科目受験している場合は高得点の1科目を利用する。

注2 「理科①」の2科目と「理科②」の1科目のいずれも受験している場合は、「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のうち、高得点を利用する。

「理科②」について、2科目受験している場合は、第1解答科目<sup><注4></sup>を利用する。

注3 「地理歴史・公民」について、2科目受験している場合は第1解答科目<sup><注4></sup>を利用する。

注4 「理科②」「地理歴史・公民」の試験時間に2科目を受験する場合、解答順に、前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」と呼ぶ。

注5 「数学」「理科」「地理歴史・公民」の中から最高得点の1科目を利用する。

3. ポリシーと選抜方法の関連 ◎：特に重視する ○：重視する 空欄：考慮する  
一般入試

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度
センター試験	◎		
面接		○	◎

推薦入試(自己推薦)

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度
小論文		◎	○
面接		○	◎
書類審査	◎		○

## 6 取得可能な資格・免許、想定する就職先

学科名	取得可能な資格・免許	想定する進路先
保育教育学科	(1年次秋学期までに選択) <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士資格</li> <li>・幼稚園教諭 一種免許</li> <li>・小学校教諭 一種免許</li> <li>・特別支援学校教諭 一種免許</li> <li>・司書教諭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所</li> <li>・幼稚園</li> <li>・認定こども園</li> <li>・児童福祉施設</li> <li>・小学校</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
地域文化学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校教諭一種免許 (国語)(英語)</li> <li>・司書</li> <li>・司書教諭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業</li> <li>・県・市町村</li> <li>・図書館</li> <li>・中学校・高等学校</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

## 7 入学検定料免除制度

松江キャンパスへの新学部設置等に伴う平成 30 年度からの新たな入試制度において、本学への進学を第一志望としている県内受験生が、進学を志望する学科の「推薦入試」と「一般入試」を併願する場合には、一般入試分の入学検定料を免除します。

※島根県内の志願者に限り適用します。

※島根県立大学の全学部全学科（四年制）の併願者に適用します。

## 8 奨学金制度

島根県立大学では、本学独自の充実した「給付型」の奨学金制度を設け、学生の学びをサポートします。

No	名 称	概 要
1	入学時奨学金制度	入学試験の成績優秀者に、授業料の半額相当を給付
2	成績優秀者奨学金制度	各学年の成績優秀者に、授業料の半額相当を給付
3	経済支援奨学金制度	経済的支援を目的とし、授業料の半額相当を給付
4	海外研修等奨学金	本学が実施する研修に参加する学生全員に対し、参加経費の1/5を給付（※金額は行先やプログラムにより異なる。）





**アクティブラーニングスペース**  
 間仕切りは自由に取り外せるようにし、人数や目的に応じて学生が自由に工夫しながら学修することが可能なアクティブラーニングの空間を整備します。



**第3 P C 演習室**

図書館との併設により参考図書や郷土資料などの禁帯出資料、視聴覚資料、有料データベースなど、図書館の持つ様々な情報資源を利用したメディアリテラシーの育成が授業時間内において総合的に行えるようになります。

**配架・閲覧スペース**

約 8 万 5 千冊の図書を配架し、閲覧スペースには約 100 席を設けます。  
 キャンパス全体として約 20 万冊の図書等が所蔵可能となります。

近日公開!!

進学の

巨神

新学部プロモーションビデオ「進学の巨神」

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/special/>

2017 オープンキャンパス *Open campus*

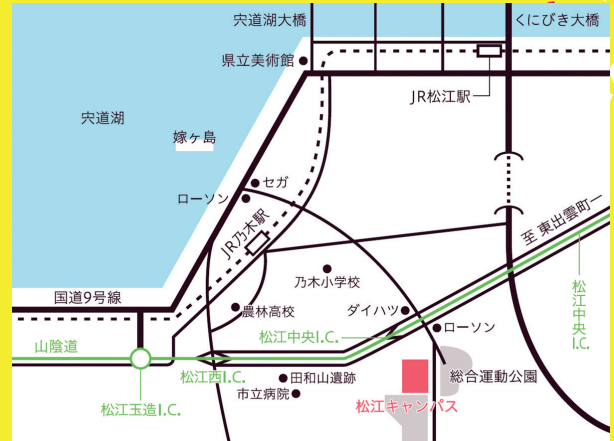
① 7/16 13:30-15:30

② 9/24 10:30-12:30

Access



- ◆JR松江駅から車で15分
- ◆市営バス(1番のりば)をご利用の場合(所要時間30分)
- ◆南循環外回り(約30分間隔)「県立短大前」下車(徒歩1分)



- ◆JR乃木駅から車で5分
- ◆松江中央インターチェンジから車で2~3分

問い合わせ先

〒690-0044 松江市浜乃木7-24-2 島根県立大学松江キャンパス

【人間文化学部に関すること】新学部設置等準備室 Tel:0852-20-0270 FAX:0852-21-8150

【入試に関すること】教務学生課 Tel:0852-20-0216 FAX:0852-21-8150